

令和7年2月13日

令和7年

第2回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

令和7年2月13日（木曜日）午後2時から

1 出席委員（6名）

小 黒 仁 史	教育長
三 留 利 夫 委 員	教育長職務代理者
高 橋 幸 子 委 員	
深 澤 佳 己 委 員	
北 内 英 章 委 員	
藤 井 大 吾 委 員	

2 出席職員（11名）

教育総務部長	今 井 健太郎
参事（教育施設担当）	河原田 光
教育総務課長	鈴 木 孝 司
教育施設担当課長	小野澤 行 平
副参事（教育施設調整担当）	小 池 武 道
副参事（教育地域力担当）	長 岡 誠
学務課長	高 野 恭 子
指導課長	細 田 真 司
学校支援担当課長	鈴 木 啓 介
幼児教育センター所長	細 田 真 司
大田図書館長	後 藤 清

3 日程

日程第1 教育長の報告事項

(午後 2 時00分開会)

○教育長

それでは、ただいまから、令和 7 年第 2 回大田区教育委員会定例会を開会いたします。
本日は、傍聴希望者がおります。
委員の皆様には傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

傍聴を許可いたします。

(傍聴者入室)

○教育長

大田区教育委員会傍聴規則第 7 条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または、拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしていますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に三留委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。
続いて、本日の日程第 1 について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第 1 は、「教育長の報告事項」でございます。

○教育長

それでは、私のほうから、本日は、小中学校における四つの研究発表会について報告いたします。

まず初めに、1 月 28 日に行われました志茂田小学校、志茂田中学校における小中学校の一貫した教育についての研究発表についてです。

研究テーマは、個性を開花させる児童・生徒の育成です。サブテーマとして、自己有用感を育む異学年での交流学习を通してです。志茂田小学校と下田中学校は、同じ敷地内に建っております。校舎や校庭もつながっていて、一緒に活動できる教育環境を生かして、小学生と中学生が交流し、互いに成長し合う学習活動を工夫してこられました。

公開授業におきましては、実に 19 に及ぶ学習や活動の交流の実践が報告されたところ
です。算数や社会の勉強を小学校・中学校で一緒におこなったり、挨拶運動や交流遊びを一緒に楽しんだり、または、部活動を一緒におこなったりと、小学校・中学校の壁を超えて、また、学年・年齢の壁を超えて学び合う姿は、これまでの同年齢・同学年を基調としたものから、新たな学びの可能性が提示されているように思いました。

今、兄弟が少なく一人っ子のお子さんも多くなっているような状況ですが、異年齢の

こどもたちとの関わりというのは、人間の社会性を広げていくために大変意味のあるものではないかというふうに感じました。楽しそうに交流する小学生や中学生の姿を見ると、研究テーマである自己有用感が異なる年齢のこどもと接し、頼り・頼られているような関係の中で十分に育っていると思いました。

二つ目の研究発表は、1月30日の大森東小学校の国際教育の研究発表です。大森東小学校では、研究推進校として、英語学習に力を入れております。大画面を活用したOGCルームでの6年生の英語によるコミュニケーションは、これまでの英語学習では見られなかったような身振り手振りを交えて、表情豊かな英語による会話が行われていました。

区独自の採用の教員である慶敏さんの指導・働きかけも素晴らしいと思いましたが、慶敏さんだけではなく、ALTの方たちの力もすぐれていて、英語に自信を持って話している6年生の姿は、これまでになく大変印象的なものでした。英語に自信を持って、英語活動を楽しんでいるこどもたちの姿から、国際社会で活躍するこどもたちの姿を想像することができるものでした。

三つ目の研究は、1月31日の北糀谷小学校の研究発表です。研究主題は、「主体的に取り組むこどもの育成」ということで、キャリア教育の実践と評価に関する研究でした。

北糀谷小学校では、令和4年度から文部科学省の指定を受けてキャリア教育に取り組んできました。この北糀谷小学校のキャリア教育の特色の一つは、実に多様な、多彩な地域の方々の参加・協力を得ているということです。多くの地域の企業の方、関係機関の方と連携を図って、小学生が実際の社会に触れながら、そこでのつながりや、関わりを学んでおりました。

これだけ多くの企業・関係機関に協力いただくのは、やはり丁寧な連絡や、学校でも力を入れてネットワークづくりを進めたのではないかと思います。それを積み上げた北糀谷小学校の校長先生をはじめ、先生方の努力が感じられました。北糀谷小学校のこどもたちは、実に多くの人たちとつながっていると思いました。こどもの生き生きとした姿が、そこに表れていたと思います。

また、北糀谷小学校は、やはり学級会とか、特別活動の中でこどもたちが話し合う活動、しっかりと議論して何かを決めていく、意思決定をしていくというような学習スタイルが徹底されて、とても充実していました。それを基盤に自信を持って、こどもたちが主体的に計画して取り組んでいる様子がよく分かりました。

四つ目の報告は、2月3日の雪谷中学校のICTを活用した研究授業です。雪谷中学校では、どの教室においてもICT、タブレットを活用した授業が行われていました。一番印象に残ったのは、どの生徒も楽しそうに学習を進めていましたが、タブレットを使いこなしており、かなり習熟が見られたと思います。

また、美術の時間に、「私のゲルニカ」という単元があって、ピカソのゲルニカを自分でアレンジして作っていました。そこにパソコンを用い、友達の作品を鑑賞しながら、コメントを書き込んでいました。有効にICTを使いながら、こどもたちの感性といったような力が養われていると思いました。

また、音楽の時間には、自分たちで作った曲をみんなで聞き合って、とても楽しそうに拍手があり、大変にこやかな表情で友達の作品を鑑賞していました。

全体的に雪谷中学校の先生たちは、こどもたちがどんどん活動する授業をしています。

先生たちにもゆとりがあって、しっかりとこどもたちの学習を見ていき、楽しそうに授業に臨んでいたのが印象的でした。

教え込むというような授業から、生徒たちが考えて表現するという授業への転換が、なされつつあるなということを強く思いました。タブレットの良さを発揮できる授業改善にこれからも全校で取り組めるようにしていきたいと思いました。

学校の研究発表についての印象に残ったことを述べさせていただきました。

それでは、報告につきまして、ご意見・ご質問等がありましたらお願いいたします。

○三留委員

ただいま、教育長が話された四つの研究発表会につきましては、今回のおおた教育ビジョンに極めて密接に関連している内容でして、注目したところですが、どの学校もしっかりとした成果が示されて、ビジョンに関わる教育活動が、大田区全体、各校に着実に浸透し、着実に実践が進んでいると感じました。

研究発表会につきましては、私は、雪谷中学校の発表に参加いたしました。

また、大森東小学校の国際教育、北糀谷小学校のキャリア教育につきましては、資料をいただき、読ませていただきましたので、三つの学校の研究について、私なりに感じたことを簡単に述べさせていただきますと思います。

大森東小学校は、これまで国際理解教育という概念から脱して、国際社会で主体的に行動するために必要な態度・能力を育てる国際教育の充実を目指しています。ネイティブスピーカーによる英語のシャワーを念頭に、低学年、中学年、高学年の発達段階に沿ったカリキュラムが作られています。資料の年間指導計画も実によくできていると思いました。

そのほか、海外体験ルームを活用した体験活動、教科横断的に国際教育に関わる活動も充実しており、児童が、様々な場面で国際人として成長するための取組が充実しているというふうに感じました。

北糀谷小学校のキャリア教育につきましては、おおたの未来づくり科を実施する中で、さらにそれに関連させて、独自のカリキュラムでキャリア教育を行っていることが特色になります。

4能力で構成される基礎的・汎用能力を基にした、低・中・高学年ごとのキャリア教育全体計画がよくできていて、関係機関と連携した学級活動、各教科等における様々な実践がなされて、児童のキャリア発達を支援していると感じました。

雪谷中学校は、生徒主体の授業に向けた学習者用のタブレットの活用の工夫を主題とした研究発表でした。学習形態を生徒が選択する学習を取り入れるなど、知識伝達型の授業ではなく、生徒主体の授業が進んでいると感じました。

全ての授業に参加いたしましたけども、スライドの作成と活用、スプレッドシートの活用、プログラミングなど、様々な活用がなされていました。生徒が自分の課題や考えに基づいて、タブレットを学習の道具として、当たり前のように活用できるようになっていると実感しました。

講師の明星大学の今野先生からは、学び合い、問題解決ができる授業の在り方、タブレットの活用などについて話がありましたが、生成AIを活用した資料作りなどに言及があり、今後、ICTを活用した授業づくりが、さらに進展していくのではないかと思います。

た。

次に、2月7日に行われました、文部科学省主催の全国の市区町村の教育委員が参加する研究協議会に参加しましたので、報告をさせていただきます。

協議会は、分科会形式の意見交換が中心で、私は、前半は、地域と学校の連携・協働、後半は、不登校対策・いじめ対策の分科会に参加いたしました。地域と学校の連携・協働についての分科会では、大田区として、おおたの未来づくり科に関わるレポートを、協議の資料として提出いたしました。

おおたの未来づくり科については、内容について質問等があり、地域の実態に合わせた地域密着型の取組ということで、参加の教育委員から「良い取組ですね」という話をいただきました。

この分科会では、コミュニティ・スクールのことについての話合いがほとんどでした。参加の委員さんとの協議の中で、全国的にもコミュニティ・スクールについて実施が進んでいると実感いたしました。

ただ、学校応援団としての取組、地域行事との関わりなどの実践例が出されていましたが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に示された学校運営の基本方針の承認、学校運営への意見、教員任用に関する意見に係る取組については、具体的にありませんでした。このことがコミュニティ・スクールに関わる大きな課題になると私は思いました。

学校長は、学校の課題を委員に明確に示し、資料提供や学校視察の機会を積極的にするようにして、熟議を促すようにしていかなければならないと改めて思いました。

その他の課題として、委員全体の高齢化、こどもの意見を取り入れられるようにすることなども挙げられました。

全体会では、文部科学省の担当者から講話がありました。

委員がコミュニティ・スクールについて理解していないことが多いことや、地域との情報共有の大切さなどについて、話がありました。

ほかに、コミュニティ・スクールの役割として、社会教育や地域づくりの側面があるという話がありました。これについては、私は、意外でしたが、今後の動向を見守っていきたいと思います。

後半の不登校対策・いじめ対策についての分科会では、主に不登校対策についての意見交換をいたしました。大田区の事例として、学びの多様化学校の取組について資料として提出いたしました。グループのメンバーは、全て一定規模の市の教育委員でしたが、学びの多様化学校を設置している所はありませんでした。学校復帰が前提ではなく、児童・生徒の実態に合わせた柔軟なカリキュラムの設定などにより出席率が上がっていることや、中等部の全卒業生が希望する進路に進学したことなどについて、話をさせていただきました。

大田区の学びの多様化学校については、これまで順調に展開されてきており、入室希望者の増加などの課題に対応しつつ、取組を進めてほしいと考えております。

そのほか、不登校対策については、各市で多様な取組があることが分かり、参考になりました。民間のフリースクールと連携した校内フリースクール、こどもの学校環境適応感を捉えるためのアンケートの実施などを各市で独特の取組をしていました。スクールソーシャルワーカーの重要性については、参加者の多くが述べており、全体的に多くの市で増

員が進んでいました。

文部科学省の講師からは、魅力ある学校づくりを目指し、今のこどもたちに合った学校のスタイルになっているかどうか検証をする必要があると述べられました。不登校に関しては、地域連携やICTの活用の重要性などについても話がありました。

研修で学んだことについて、今後の活動に生かしていきたいというふうに思っております。

そのほか、不登校対策については、各市で多様な取組があることが分かり、参考になりました。民間のフリースクールと連携した校内フリースクール、こどもの学校環境適応感を捉えるためのアンケートの実施などを各市で独特の取組をしていました。スクールソーシャルワーカーの重要性については、参加者の多くが述べており、全体的に多くの市で増員が済んでいました。

文部科学省の講師からは、魅力ある学校づくりを目指し、今のこどもたちに合った学校のスタイルになっているかどうか検証をする必要があると述べられました。不登校に関しては、地域連携やICTの活用の重要性などについても話がありました。

研修で学んだことについて、今後の活動に生かしていきたいというふうに思っております。

○教育長

ほかにございますか。

○高橋委員

私からは4点報告します。

1月28日、志茂田中学校・志茂田小学校の研究発表会です。こちらは、施設一体型の環境を生かした取組で、日頃から小中連携して活動している所です。授業、活動、パネル発表が公開され、小学校では、中学生と共に学ぶ様子が楽しそうで、中学生が頼もしく見えました。廊下での案内を中学生がしていたり、公開活動の漫才教室は、興味ある取組だと思いました。参加者も多く、関心の高さを感じたところです。学校に行くことは楽しい、自分には良いところがあるなど、取組の成果が出たことは、うれしく思いました。

1月31日は、北糺谷小学校の研究発表会です。研究発表の最後にエンドロールで協力をいただいた全ての方々、研究に携わった教職員の紹介が流され、一致団結して取り組んだ集大成として、有意義だと感じました。

取組の成果として、「先生は、あなたの良いところを認めてくれますか」と「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では、100%の回答があることは、とても素晴らしいものです。講師の安部恭子先生からは、各教室の授業の講評を基に話していただき、参加者にもよく理解できたのではないかと思います。

ウェルビーイングの向上については、先生方のウェルビーイングが大事で、笑顔で元気にと話され、児童にも伝わることなどで大切な話でした。

2月3日は、雪谷中学校の研究発表会です。公開授業ではグループごと、自分たちが選んだ学習をタブレットで話し合っている姿が多くあり、探究・対話・自立の学びになっていることに感心いたしました。

講師の今野先生による講評で、分科会ごとの取組内容がより理解できたのではないかと

思います。グーグルチャットを使って質問を共有して取り上げる取組など、タブレットは、学習者・教師共に活用されていました。3校とも2年間の研究に携わり、成果を上げた校長先生をはじめ先生方に敬意を表します。

2月7日に、市町村教育委員会研究協議会に参加いたしました。グループ協議をテーマ別にして、「学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行について」に参加いたしました。民間業者に移行していて、専門指導員には、生徒・保護者に大変好評なのですが、今後、少子化対策も検討していかなければいけないというところと、卒業生が3校を集めて地域クラブとして始まったところ、地域移行までは行っていないなど、様々な話が聞けました。

私は、大田区としては、ダンス部の活動を紹介いたしました。もう一つのグループテーマ「地域と学校の連携・協働について」では、CSディレクターを中心にしているが、能力差・地域格差などがある、コミュニティ・スクールは、まだ始まっていない、地域でも、若い人材を見つけにくいなど、お話がありました。

主催者側から、今までやっていることを持続できるようにするということと、情報の共有が大事だとお話がありました。全体会で、コミュニティ・スクールがまだ進んでいない所が割と多いということを意外に思いました。大田区は、進んでいると思って、うれしくなりました。

○深澤委員

私は、1月28日の志茂田小・中学校の研究発表会に行ってきました。先ほど、教育長からもお話がありましたが、志茂田小学校と中学校は、同じ敷地内にあるという環境を最大限に生かして、様々な良い取組を実践されていました。

おたの未来づくりの授業では、大田区の名物給食である「たこぺったん」を題材として、小学生・中学生が一堂に会して授業を進めていました。

小学生は、あらかじめフードロスについて調べてきたそうですが、研究発表会のときには、中学生が協力事業者であるセブン-イレブンにおけるエコ活動の一環である、手前取りについての提案と実践についての発表を行いました。小学生は、中学生がセブン-イレブンで行った活動の発表を聞いて、SDGsをととても身近に感じたことと思いますし、中学生にとっては、自分たちの提案を小学生にも分かりやすいように説明する良い機会となり、相乗効果のある学習であると思いました。

講演は、文部科学省の初等中等教育局教育課程課長である武藤久慶様から、学習指導要領改訂議論が迫る今、お伝えしたいこととして、現代社会における問題点とそこから派生する改訂学習指導要領の要点の話がありました。

武藤氏からは、様々な示唆をいただきましたが、その中で印象的だったのが、デジタルが積極的に活用されていく中で、実体験の格差やデジタル化の負の側面を指摘する声がありますが、デジタルカリアルか、デジタルか紙かといった二項対立に陥らず、デジタルの力でリアルな学びを支えるとの基本的な考えに立ち、バランス感覚を持って積極的に取り組む必要がありますという点でした。

2月3日、雪谷中学校の研究発表会に行きました。「学習者主体の授業に向けた学習者用タブレット活用の工夫」というテーマでした。本校の授業では、大変効率的にタブレッ

トが使用されていました。2年生の社会で、「茨城で魚の収穫量が増えたのがなぜか」という問題が提起されていました。「大洗から都心までの高速道路が整備され、都心に新鮮な魚を送ることができるようになったから」と生徒が答えると、スライド上の地図に大洗から東京までの高速道路が示されました。このように視覚的に分かりやすく学習できるのが、ICTの利点です。

その後、生徒たちが理解したこと、分かったことを先生があらかじめ作成したプリントに手書きで書き込んで、その単元のまとめをしており、デジタルと従来の授業の良いところをバランスよく取り入れていました。先ほどの武藤氏が指摘された、デジタルか紙かという二項対立に陥らないという言葉を実践した授業を拝見したと思いました。

○教育長

ありがとうございました。

○北内委員

私も志茂田小中学校と大森東小学校の研究発表会に出席させていただきました。

1月28日(火)、志茂田小学校・中学校の研究発表会に出席しました。両校は、令和5・6年度本区教育推進校で、両校舎が同じ敷地内に在り、且つ物理的に繋がっているという特性を活かし、特に小中連携・一貫教育について取り組まれてきました。研究主題は、「個性を開花させる児童・生徒の育成 ～自己有用感を育む異学年での交流・学習を通して～」です。

小学校6学年と中学校1学年の教科おおたの未来づくり「たこぺったんを広めよう」では、小学生は制作した動画・ポスターについて、中学生は企業にプレゼンテーションしたことと作成したPOPについて発表し、互いの発表から感じたことや考えたことを伝え合いました。学習を通して、児童・生徒は、対話力・発信力・論理的思考力など、教科おおたの未来づくりが目指す総合的な学力を養えたと思います。

小学校4から6年生と中学校2・3年生のサイエンスクラブでは、グループに分かれて、煮干しを解剖し各部位を観察しました。中学生のお兄さん・お姉さんが各グループの実験台に配し、小学生に指導的な立場で教えていました。小学生は中学生に尊敬の念を抱き、中学生になったらサイエンスクラブに入りたいと興味が湧いたと思います。中学生は、小学生に説明することで、知識がさらに深まり定着したと思います。小中連携の好例だと思いました。

体力向上（駅伝交流）では、小学生駅伝大会に向けて、中学生が練習に参加し、ペースメーカーとして走ったり、自分の経験談や応援のメッセージを話したそうです。また、小中合同の駅伝練習会も実施したそうです。その甲斐あって、昨年12月の60校が競い合う小学生駅伝大会では、午前部1位、全体でも1位のタイムでゴールしました。先輩から学び、後輩がその期待に応え、共に達成感があったと思います。

施設合同避難訓練では、児童・生徒が校庭に避難した際、毎日大勢の人たちの中で共に生活を送っているということに気づき、近くにいる者同士が助け合って自分たちの命を守るという「共助」の精神を高められたと思います。

小学校・中学校の先生たちの交流も盛んで、カリキュラム研究を推進されました。当日

は、多くの来場者が居られ、小中連携・一貫教育の素晴らしい研究事例になったと思います。小中両校の校長先生をはじめ教職員の皆さまに感謝申し上げます。

1月30日(木)、大森東小学校の研究発表会に出席しました。本校は、令和5・6年度本区研究推進校で、昨年度新設された「おおたグローバルコミュニケーション (OGC)」ルームを活用した国際教育について取り組まれてきました。研究主題は、「世界へのつながり、自己を高める、東っ子 ～OGC・体験活動を生かした国際教育を通して～」です。

大森東小学校は各学年1クラスと特別支援学級からなる小規模校です。小規模校の良さを生かして、児童と先生の距離が近く、こどもたちはのびのび学習していました。また、外国にルーツを持つ児童が多数在籍し、大森東小学校は(ある意味)インターナショナル・スクールでもあります。先ほど、国際教育と言ったのは、多様な文化や背景をもった他者を認め合う素地があり、それをベースに英語だけでなく、日本を含め各国の文化を主体的に学んでいるからです。

例えば、2年生の「「ないた赤おに」の世界をひょうげんしよう」では、児童が英語に慣れ親しむために、身近で簡単な語句や基本的な表現を用いて、「ないた赤おに」の音読劇をされました。先生が音楽の専門であることを生かして、「ないた赤おに」をオペラ風に児童たちと歌いました。その後、赤おにの感情などを英語で表現し、どの場面に対応するか、児童たちに考えさせました。児童は授業にのめり込み、楽しそうに学習していました。

このクラスも外国にルーツをもつ児童が数名在籍し、こどもたちは、食事や衣服など、学校生活の中でも様々な文化の違いが見られるが、それをごく自然なものとして受け入れていました。日本語が不慣れな友達に対し、どの児童も積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとしてきたそうです。

当日は、多くの来場者が居られ、国際教育の素晴らしい研究事例になったと思います。校長先生をはじめ教職員の皆さまに感謝申し上げます。

○藤井委員

今日は、ヘリコバクター・ピロリ、ピロリ菌とこどもたちについて情報提供をさせていただきたいと思います。

ピロリ菌というのは、大体3、4歳ぐらいまでの間に口から入って胃に生着することで感染します。大人になってくると、胃酸の働きで新規の感染というのは起こりません。今の90歳ぐらいの方々の世代では、半分以上の方がピロリ菌陽性でしたが、現在の小学生での調査では、パイロット・スタディによりますと、3%以下です。

非常に減った理由は、いろいろな感染経路が言われていますが、一番大きな感染経路は下水の発達によって減っていると考えられます。昭和50年ころまでは、食卓にもハエがブンブン飛んでいましたよね。ハエがいろんな食材に接触して、そういうところからうつっていた可能性が高いと思われます。井戸水とか、親子感染というの也被言われていますけれども、それだけではなくて、インフラの発達が感染率の低下に結びついたと考えられます。

ですから、大田区で下水道を整備していただいたことが、実は、胃がんの抑制に非常に貢献しているということで、土木課の方には、感謝を申し上げます。

それから、実は、小学校・中学校で、特に中学校では、腎臓検診ということで尿検査をします。尿たんぱく、尿潜血反応を見ます。実は、ピロリ菌検査も尿検査でやる方法があります。同時に行えば、かなりの人数が中学生のときにピロリ菌の検診を受けられるということは言われています。ピロリ菌は持続感染しますので、除菌せずにピロリ菌がそのまま残っていると、大人になって50年・60年たったときに、胃には萎縮性胃炎、それから、腸上皮化成という段階を経て、胃がんができたり、胃潰瘍、十二指腸潰瘍を発症します。全員ではないですが、一部の方がそういう病気になり、その主たる原因がピロリ菌であるということが分かっています。

ピロリ菌を発見した人は、ノーベル賞を受賞しております。医学的には、もう間違いなくピロリ菌というのは困ったものだということは分かっていますが、現状では、30歳、40歳、50歳でピロリ菌がいるということが分かったときに、ピロリ菌を除菌する、やっつけてしまうことがおこなわれています。

ただ、それまでの長い間ピロリ菌による胃炎が続いていた胃には、除菌してもその後、がんができてくることがあります。その発見は、普通のがんの発見より難しいといわれています。

若年型の胃がんというのがありまして、20代で胃がんを発症することがあります。そういったことから、早めにピロリ菌がいる人たちは除菌をしたほうがいいというのは、もうコンセンサスを得られている話になっています。中学1年のときは、除菌する薬がまだ使えません。保険上の問題ですが、高校生になると使えます。

ですから、中学生で陽性だった人は、高校生で除菌するということができると、内視鏡の検査をやらなくても、除菌することができます。非常に検診効果も高いし、費用も安く済むし、こどもたちが大人になったときの健康、あるいはそのこどもたちが成人して結婚したときに、こどもたちができたときに、そのこどもにうつる可能性も減らすことができるということで、早めにチェックをするというのは、非常に意味があることだと思いますが、3年間の高校生になるまでの間、陽性と言われたのに治療ができないストレスですとか、あるいは秘密を守ることとか、いろいろ検討すべきことがあるということで、大田区では8年前から成人式のときにピロリ菌検診の無料チケットを配るようにしています。

20歳での検査でも遅くはないかもしれませんが、受診率が5%ぐらいしかありません。十分な効果は上げられていないのかなということもありまして、情報提供として、今の状況をご報告させていただきました。

○教育長

ありがとうございました。

ほかに、ご質問・ご意見はありますでしょうか。

よろしいですか。

それでは、これをもちまして、令和7年第2回の教育委員会定例会を閉会といたします。ありがとうございました。

令和7年 第2回 教育委員会 定例会 2月13日(木) 午後2:00～

教育委員会室

<教育長の報告事項>

<部課長の報告事項>

☐教育総務部長

☐参事（教育施設担当）

☐教育総務課長

☐教育施設担当課長

☐副参事（教育地域力担当）

☐副参事（教育施設調整担当）

☐学務課長

☐指導課長

☐指導企画担当課長

☐学校支援担当課長

☐副参事（法務担当）

☐教育センター所長

☐幼児教育センター所長

☐大田図書館長

令和 7 年 2 月 13 日

令和 7 年第 2 回教育委員会定例会日程

日程第 1 教育長の報告事項